

令和5年度後期学校評価(教職員アンケート)

経営支援部

質問項目	前期				後期				肯定(%)		前年度との差	考察
	4	3	2	1	4	3	2	1	R4	R5		
①基本的な人権を侵害する言動を「見逃さない、許さない」指導を徹底し、組織的に差別やいじめ防止に取り組んでいる。	88	12	0	0	80	20	0	0	100	100	0	引き続き教員一人一人が人権感覚を磨き、強く意識していきたい。
②特別支援部を中心に、全教職員で特別な配慮を要する児童や不登校傾向のある児童の支援に組織的に対応している。	54	46	0	0	64	36	0	0	—	100	—	特別支援部を中心に、全教職員で対応することができた。今後も学習室「みどり」を活用した学習支援など具体的な手立てを考えていきたい。
③「児童の主体性の育成」について積極的に研究している。	33	54	13	0	38	54	8	0	—	89.5	—	「児童の主体性」について共通理解を図り研究をすすめていきたい。
④複線型学習、自由進度学習など、子供が「主語」となる学習を中心とした授業改善に取り組んでいる。	14	68	14	4	32	50	14	4	—	82	—	今年度は子供が「主語」となる授業について手探りの状態だったので、来年度は具体的な取り組みの形ができると良いのではないかと。
⑤評価検討プロジェクトチームを中心に、通知表に代わる効果的な評価方法について研究・検証し、評価方法改善の方向性について理解することができた。	18	41	36	5	26	52	18	4	—	68.5	—	評価について、来年度どうしていくか今後検討が必要である。
⑥児童自ら健康保持・増進を意識できるように保健指導を実施した。(予定している)	29	71	0	0	55	45	0	0	—	100	—	児童自ら健康保持・増進のために保健指導を行うことができた。
⑦熱中症の危険性を説くなど、基本的にマスクをしない生活を意識させる声かけをした。	52	43	0	5	65	30	0	5	—	95	—	熱中症の危険性も高く、意識して声をかけることができた。
⑧ゲストティーチャーを活用した授業実績及び予定の回数の合計(学年で) 4:3回以上 3:3回 2:1~2回 1:0回	37	11	37	15	60	25	10	5	28.5	66.5	38	コロナの制限がなくなり、積極的にゲストティーチャーを活用する機会が増えた。
⑨全ての教育活動を校内研究に結びつけ、当事者意識をもって取り組んでいる。	39	43	18	0	54	36	5	5	—	86	—	研究を意識して教育活動を行っているが、なかなか実践に結びつかない現状もある。
⑩当事者意識をもって、服務事故防止研修に参加している。	96	4	0	0	92	8	0	0	100	100	0	服務事故防止に関する意識は定着している。今後も服務事故0を目指していく。
⑪校内研修、OJT、朝礼講話、INAHO執筆等、各種研修に意欲的に参加している。	33	63	4	0	42	54	0	4	84.5	96	11.5	各研修の取り組みは定着してきている。
⑫上記の各種研修は、自己の資質・能力向上に効果があった(ある)。	21	67	12	0	50	38	8	4	85	88	3	ICT機器の活用スキルは向上している。今後も目的意識をもって取り組みたい。
⑬平均時間外勤務月45時間以内の目標を意識して働いている。	32	60	8	0	36	44	16	4	81.5	86	4.5	今後も勤務時間を意識していく。仕事を精選し、働き方改革を進めていきたい。
⑭現在までの平均時間外勤務時間は(月当たり)? 45時間未満・・・4 45時間以上50時間未満・・・3 50時間以上55時間未満・・・2 55時間以上・・・1	28	32	16	24	36	36	20	8	66	66	0	在勤時間短縮の意識は後期マイナスになってしまったが、実際の時間外勤務は減っている。

「該当する」→4 「おおむね該当する」→3 あまり該当しない→2 「該当しない」→1